

岩手郡医報

高橋 孝先生書



晩秋の岩手山

Contents

- 東北医師連合会総会一坪井会長講演（要旨）
 - 岩手郡医師会主催 救急・災害医療懇話会報告
 - 心肺蘇生法講習会
 - 平成12年度岩手郡医師会産業医実地研修会
 - 第1回岩手県医師会健康スポーツ医学委員会
 - 平成12年度こどもの健康ホーラム
 - 平成12年度スポーツドクター健康体力相談会
 - 第34回岩手県医師会親善ゴルフ大会参戦記
 - 岩手郡医師会親善ゴルフ秋期大会
 - 外国人の歴史書から教えられること
 - トピックス インフルエンザ予防注射実施要綱
 - 日医FAXニュースから
 - 編集後記
- 高橋 牧之介
久保谷 康夫
及川 忠人
坂井 博毅
上原 充郎
上原 充郎
上原 充郎
嶋 信
坂井 博毅
國本 恵吉

2000.11.No.67

岩手郡
医師会

東北医師連合総会— 坪井日医会長講演要旨 岩手郡医師会長 高橋 牧之介

9月24日、仙台市内で開かれた東北医師会連合会の総会で「わが国21世紀医療のグランドデザイン」をテーマに講演し、財政ありきの医療政策は欠陥である、官僚が支配する医療からの脱却を強調した。

(要旨)

医療費抑制に主眼を置いた低医療費政策が日本の医学医療研究の足かせになっているとの認識を表明し、「医療は日進月歩で伸びていく技術をできるだけ多く受けいれたいという国民の意識と、革新的医療技術をマキシマムに提供したいわれわれの意欲と国の財政との極限のバランスで決めるものだ」とし、最初に財政ありきで医療費を決定する現在の医療政策には、「大きな欠陥がある」と批判した。ただ公的保険制度の枠内で多様化する国民のニーズすべてに対応することは、財政的に困難なことも指摘し、新しい医療財源の調達方法として自律投資を導入する必要性を説いた坪井会長は、米国商務省がまとめた「特許からみる技術力の格差」(医療健康分野)のデータを示した。それによると米国、EU(欧州連合)は年々技術力が向上しているのに対し、日本は横ばいで推移、米国、EUに大きく水をあけられている。日本は論文の量は先進7か国のなかで1位だが、その信頼度は最下位とする英国の科学雑誌ネイチャーの報告もあり、「日本の先端医療研究の世界医学への貢献は必ずしも誇れるものではない」との見方を示した。医療費は医療技術の進歩に伴って本来右肩上がりに伸びるものであるのに、日本は低医療費政策によって医療費の伸びが頭打ちにされたために「医療技術の進歩についていけなくなった」と問題提起した。

こうした問題認識から、日医の「2015年医療のグランドデザイン」は低医療費政策からの脱却を促し、医療費の対GDP(国内総生産)比の国際比較などを踏まえて2015年の医療、介護費60.2兆円と推計している。しかし、ヒトゲノムの解析などによって医療技術が今後飛躍的に進歩すると見込まれるなかで、坪井会長は、「ほんとうにこれだけで、国際的に進歩していく医学医療を国民が遅れをとっていると感じないで賭けていけるかという、そうではないのではないか」との認識を表明した。

公的保険の枠内ですべての医療財源を賄うことは困難であると、遺伝子医学、生殖医療、アニメティーなど、個人がその哲学や意志で選ぶ選択性の強いものは、民間保険、貯蓄で賄う自立投資の導入を唱えた。

坪井会長はまた、医療に関する情報を患者に徹底的にディスクロージャすると強調し、非営利を基本理念としている医療の世界に市場原理、自由競争原理はなじまないと主張した。

そして、最後に坪井会長は「自立した医師会」として、

- 1、官僚支配医療からの脱却
- 2、自立意識の高揚
- 3、プロフェッショナル、フリーダム
の確保
- 4、医療現場の徹底したディスクロージャー
- 5、生涯教育の責務化の5点を列挙した。



岩手郡医師会主催 救急・災害医療懇話会 報告

地域医療担当理事 久保谷康夫

救急の日にちなんだ医師会事業の一環として、岩手郡医師会主催の救急・災害医療懇話会が平成12年9月19日、ホテルメトロポリタン盛岡本館において開催されたので報告する。

懇話会は、当会から高橋牧之介会長外役員12名、盛岡地区広域行政事務組合から田村勝義消防長外17名が参加して行われた。

はじめに岩手医大高次救急センター教授の谷口繁先生より災害・救急医療に備えてと題して基調講演がなされた。岩手県高次救急センター発足以来の実績とかかりつけ医との連携の実情について報告された。特に岩手県の県土の広さ・特徴から搬送システムの整備の必要性を強調された。また搬送システムの一環としてヘリコプターの活用と整備についても言及された。

引き続き、谷口繁教授も参加しラウンドテーブル方式の救急災害医療懇談会を行った。

現況報告として盛岡地区広域行政事務組合から、救急救命士・救急隊員等の救急体制、救急活動状況として救急活動件数・事故種別救急出場件数・医療機関別搬送人員(岩手郡医師会構成町村別)、火山災害時の出動可能救急自動車状況ならびに医療機関の所有救急自動車状況等の詳細な報告がなされた。

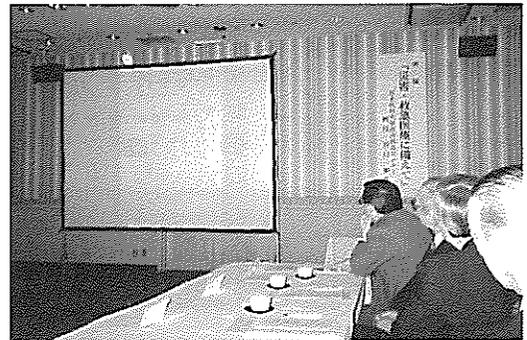
つぎに当会の高橋牧之介会長は救急医療と災害医療の同一点と相異点について説明し、初療体制における情報と搬送が最も重要な問題であると指摘された。とくに岩手郡医師会の地理的特徴から救急医療に果たすべき当会のあるべき姿に言及し、効果的

な搬送体制の構築の必要性を強調された。

そこで、各地域の救急医療体制の現況について、葛巻分署長は山間部の問題について、西根分署長は農村部あるいは高速道路での問題について、また滝沢分署長は盛岡周辺地域の問題について報告された。それらの救急医療の問題について活発な意見交換をした。

最後に、高橋牧之介会長は、岩手郡のような広域的な地域における救急医療のあるべき姿は多彩であるとし、関係機関の有機的な連携の必要性を強調された。

なお初療体制のもうひとつの問題点の情報については、岩手郡の持つ広域性から、無線の利用とその実用化にふれられたが、時間の関係上去年度の討論課題とした。



講習会風景



討議風景



懇親会風景

「心肺蘇生法」講習会

総務担当理事 及川 忠人

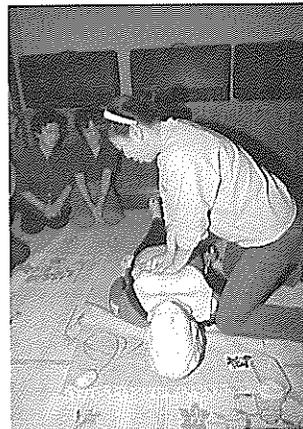
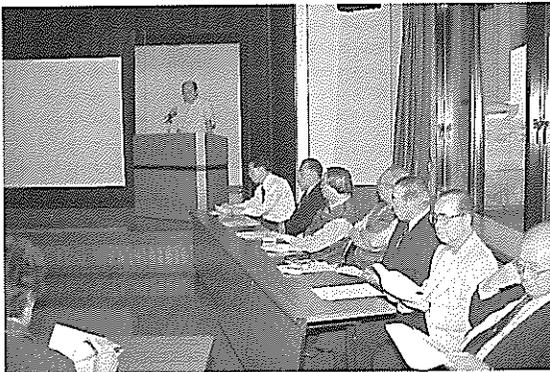
救急医療月間にあたり、平成12年9月9日(土)に岩手郡松尾村の総合福祉センターにて心肺蘇生法の啓蒙普及を目的として岩手郡医師会主催の「心肺蘇生法」講習会が開催された。

開会に当たり高橋牧之介岩手郡医師会長より講習会の目的の説明と意義についてお話があり、次に佐々木四郎松尾村村長から医師会への謝辞と救急蘇生法の大切さ等の挨拶があった。講演は「救急処置の考え方・実際の方法について」と題して及川(東八幡平病院院長)郡医師会理事より救急を要する疾患やその意義についての説明を行い、次に藤井東八幡平病院副院長から「人工蘇生法の考え方とその方法」と題し

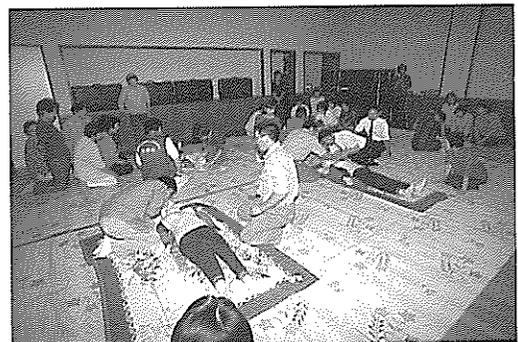
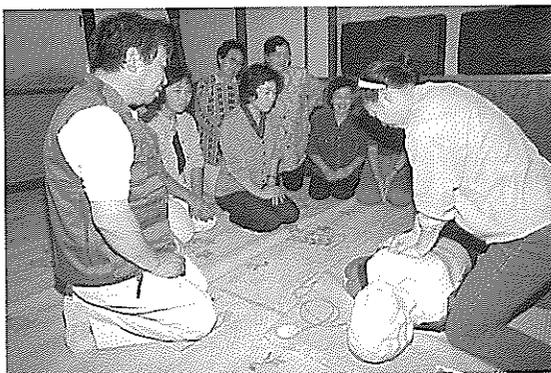
て、救急蘇生法の解剖生理学的説明を簡明に行ったあと、実際に蘇生法の現場に居る想定のある臨場感のある緊迫感あふれるビデオを見ながら蘇生法の重要性を学ぶことが出来た。

約1時間の講演学習のあと、栃内理事(栃内第二病院院長)および篠村理事(篠村外科医院院長)そして消防署職員による救急蘇生実習用人体5体による実習演習が行われた。実際に心肺蘇生を行う現場を想定しながら真剣に心肺蘇生法を学ぶことの大切さを身をもって模擬体験学習することが出来たことは大変意義深いことであると思われた。

参加人員は村民等65名、医師会から12名の合計77名の参加を得て盛会裡に終了した。末筆になりましたが高橋郡医師会長他多くの諸先生方のご支援および松尾村役場の方々のご協力に感謝申し上げ簡単な報告に替えたいと存じます。



講演会及び実技実習風景



平成12年度岩手郡医師会産業医実地研修会

広報担当理事 坂井 博毅

平成12年10月21日(土)日本医師会認定産業医基礎、生涯(実地)研修が会員28名の参加のもと、介護老人保健施設ケアホーム川口で開催された。岩手郡医師会産業医実地研修会が開催されたのは今回で6回目である。

岩手郡医師会産業医担当理事、八角正司先生の御挨拶の後、松田総婦長さんの司会で、

1) 介護老人保健施設介護保健「介護保健で現場はどう変わった」

2) 施設職員の衛生管理体制「健康診断と健康管理」の綱目が、小野堅司支援相談員さんと佐々木咲子担当保健婦さんからそれぞれ説明があった。

下図は保健婦さんが示した平成11年度の施設職員の健康診断検査結果を示す表とグラフである。

見切り発車し、欠点だらけの介護老人保健のため、本施設に限らず、全ての施設でケアプランナー、看護婦さんその他の方々の書類作製や事務処理等の雑用が本来の老人介護の仕事を妨害するようなありさまで、精神衛生上もかなり問題があるとのことでした。おいおい改善される事と思いますが、こうした施設に従事する職員独特の健康診断と健康管理が求められる職場であると痛感した。

研究会の後、1階から3階までの入居者には至れりつくせりの施設を見学し、職員の方々のご苦勞を垣間見て研修会は終了した。

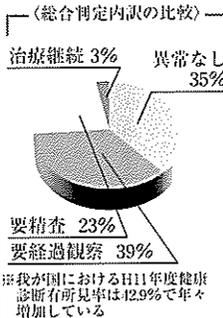


研究会風景

[H12年度日新堂健康診断総合成績]

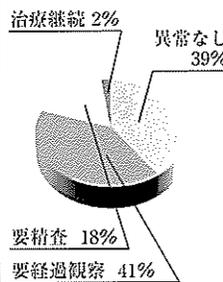
◎日新堂全体(玉寿荘を除く)

区分	総数	男	女	
受診者数	220	50	170	
異常なし(%)	77(35%)	8(16%)	69(40.6%)	
有所見者(%)	143(65%)	42(84%)	101(59.4%)	
有所見者内訳	要経過観察(%)	87(39.6%)	23(46.0%)	64(37.6%)
	要精査(%)	50(22.7%)	16(32.0%)	34(20.0%)
	治療継続(%)	6(2.7%)	3(6.0%)	3(1.8%)

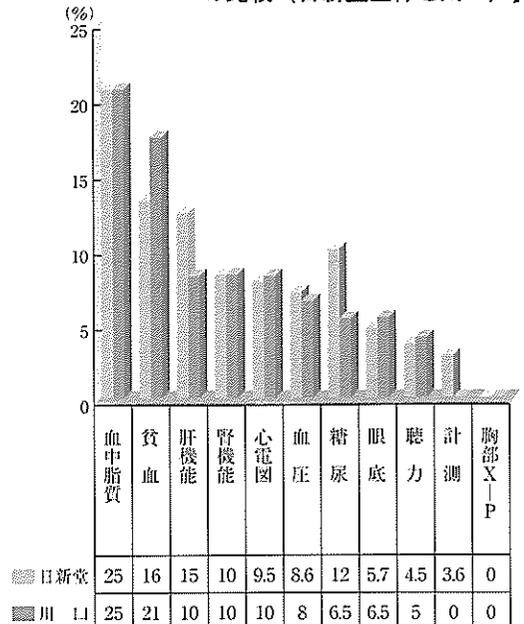


◎ケアホーム川口

区分	総数	男	女	
受診者数	61	15	46	
異常なし(%)	24(39%)	4(27%)	20(43%)	
有所見者(%)	37(61%)	11(73%)	26(57%)	
有所見者内訳	要経過観察(%)	25(41%)	7	18
	要精査(%)	11(18%)	3	8
	治療継続(%)	1(2%)	1	0



[H12年度健康診断・検査項目別有所見率(%)の比較(日新堂全体と川口)]



第1回岩手県医師会健康スポーツ医学委員会

学校保健担当理事 上原 充郎

第1回岩手県医師会健康スポーツ医学委員会が、平成12年10月28日午後3時県医師会館において開催されました。

委嘱状交付に続いて、星透逸先生が委員長に、鷹齋先生（県理事）が副委員長に選出されました。星委員長の議長により最初に平成12年度事業実施状況について報告がなされました。それによると

1. 第10回スポーツ医科学懇話会（4月22日）
2. ボクシング協議会へのリングサイドドクターの派遣（5月6日～12月9日まで18日間）
3. スポーツドクター健康体力相談会への医師派遣

7月30日 平泉町 一関市医師会
9月17日 陸前高田市 気仙医師会
10月1日 大迫町 花巻市医師会
10月8日 西根町 岩手郡医師会

4. 日本医師会主催健康スポーツ医学講習会の通知

5. 岩手日報への記事掲載

9月26日岩手日報 朝刊

「お元気ですかNo.6」

続いて、協議として

1. 日本医師会の「健康づくりシステム（案）」について
2. 日本医師会健康スポーツ医学委員会報告について
3. 労働者健康開発支援事業について
4. 今後の活動について

- ①第11回岩手県スポーツ医科学懇話会（日医認定健康スポーツ医再研修会指定）平成12年11月25日（土）14：00～岩手医科大学

- ②第6回日本医師会認定健康スポーツ医制度再研修会平成13年1月27日（土）10：00～日本医師会館

- ③日本医師会認定産業医基礎（後期）・生涯（専門）並びに健康スポーツ医学再研修会平成13年2月3日（土）14：00～岩手県医師会館（くわしくは県医師会へ）

会はスムーズに終了した。

平成12年度こどもの健康フォーラム

学校保健担当理事 上原 充郎

平成12年度こどもの健康フォーラムが次の通り開催されましたので報告致します。

テーマ：「こどもの心と体：小学校低学年の場合」

主催：日本小児科学会岩手地方会、岩手県小児科医会、岩手県小児保健協会

日時：平成12年10月26日（木）
午後2時～4時45分

会場：岩手県医師会館4階ホール
盛岡市菜園2丁目8-20
TEL019-651-1455

内容：講演・演題「学級担任からみた小学校1・2年生」講師 石亀 紀男（盛岡市厨川小学校校長 岩手県小学校長会会長）

シンポジウム

「こどもの心と体：小学校低学年の場合」

座長

島山 富雄（島山こども健康相談所所長）

石亀 紀男（岩手県小学校長会会長）

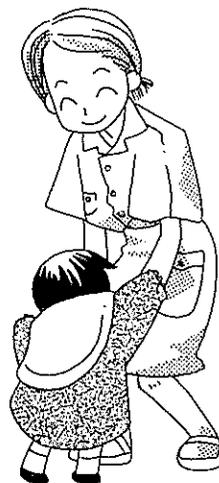
シンポジスト

齋藤 康子（一戸町立奥中山小学校教諭）

久慈 竜也（岩手県PTA 連合会会長）

松館 啓子（盛岡市立仙北中学校養護教諭、元盛岡市立河北小学校養護教諭）

前多 治雄（岩手県立中央病院小児科科長、盛岡市立上田小学校校医）



外国人の歴史書から教えられること

滝沢中央病院長 國本 恵吉

小生の岩手日報の連載、「岩手の医療—先人たちの挑戦」も134回を数え、江戸時代に入った。「岩手の医学通史」の上梓以降、調べた新しい医療に関する資料を紹介できる嬉しさを感じながら書かせて頂いている。

新しいという意味は、日本史の中でこれまで医学史のなかに入っていないというよりは、入れてもらえなかった史実が余にも多いことに驚かされることである。加えて、われわれが教えられた日本史が、わが国に関する真の歴史ではない、偽りの歴史であったことをこの年齢になって気付かされる愚を、これからの世代の人々にさせたくないという義憤に近い思いにさせられている。歴史教育の怖さ、難しさを痛感させられていると言えはいいのだろうか。一例をあげてみよう。

徳川第五代将軍、綱吉は、日本史上で「生類憐みの令」の公布者として、日本人には悪名高い人であるが、逆に江戸時代の鎖国下、長崎出島のオランダ商館付の医師としてわが国を訪れた「日本誌」の著者、ドイツ人医師ケンペルによってその人物像が高く評価された人である。その「日本誌」は、当時のヨーロッパでベストセラーとなった本であり、わが国を訪れる欧米人の必読書であったことから、わが国の評判とは裏腹にヨーロッパでの綱吉の評価は、弱者救済政策、公衆衛生政策の実施者、社会的弱者、貧困者の保護を目ざした将軍として名高かった。

綱吉の時代は、当時の悪習であった「捨て子」が法律で禁止されたほか、親が子どもを育てる経済力を持たない場合、役人が親に代わって子どもの世話をしなければならなかった。捨て子や子殺しを防ぐために、妊婦と子どもの氏名が登録され、流民に対しても、役人は食事と宿泊所を世話する義務を課せられていた。

牢屋の囚人たちの福利厚生に配慮し、牢

屋の換気を改善し、入浴も最低週五回許可したほか、冬期間には防寒用の衣料を追加支給するなど、綱吉の時代に定められた法律は、現代の社会福祉政策の実施のための立法の先駆的なものであったものが多い。

翻って「生類憐みの令」が本当に悪法であったのかを考えてみた場合、その背景に当時百万人に達していた江戸の人口の急速な増大のあったことを忘れてはならない。

人口の密集した大都会に、犬の死骸が腐乱し、人の健康を脅かすようになったため、犬を人の保護下におくことで、狂犬病対策として公布されたのが「生類憐みの令」であったのである。現在では普通になっている犬や犬の飼い主の登録は、狂犬病予防のためにとられた処置であることは常識となっている。

しかし、狂犬病の存在は知っていても、原因はもちろん、罹感した犬と患者の処置法も分からなかった時代、1687（貞享4）年に、絶対的な力を持つ人でしか取りえなかった賢策として、綱吉の施策を称賛する記事をケンペルの「日本誌」に見出すとは、筆者も考えてもいなかった。ケンペルは、当時のヨーロッパの人たちに、先駆的なわが国の姿を知らせていたのである。世界的にみても、アメリカのニューヨーク州議会で1万2千人以上の人口を持つすべての都市に犬の登録が義務付けられたのは1894年であることを考えるとその意味がよく分かる。

悪法とされた根拠は、「生類憐みの令」が法の前では身分差別はなく、何人も平等であるとされ、武士が一般庶民と同じ位置にあることを認めた画期的な法律であったことによる。当時「斬り捨て御免」という権利を持つ武士の「戦国時代の旧習」を捨てさせるために努めた綱吉の政治的計画の一つであったのである。

綱吉の時代は、わが国は経済的、社会的に大きな変化を遂げていた。その変化にも気付かず支配階級として君臨し、旧態依然たる階級に与えた警鐘であったことをわが国の歴史書は我々に教えてくれている。何か現在のわが国の社会への警鐘にも思えてならない。

歴史から教えられることはまだまだ数多い。

岩手県医師会親睦ゴルフ大会参戦記

西根町 嶋信

第34回岩手県医師会親睦ゴルフ大会は、一関市医師会の担当で平成12年9月17日(日)胆沢郡衣川村のみちのく古都C.C.に県内の北は久慈医師会から、南は気仙医師会まで、ゴルフ愛好者のエントリーには、約138名(うちゲスト6名、当日欠席者多数あり)、あいにくの雨天の中、午前7時30分よりスタートした。

今大会に岩手郡医師会よりエントリーした先生は5人おりました。郡内には、有力なシングルプレイヤー(ハンディが10以下の人)が多数おられますが、その殆どが当日いろいろの行事と重なったり、都合により参加できなかったため、結局当日参加したのは、壮年(50~59才)の部の小生と栃内秀彦先生の2人であり、団体戦(上位5人の合計NETスコアで争う都市対抗戦)への参加は出来ませんでした。

予め送付された参加者名簿によれば、今回より岩手医科大学医師会として5人がエントリー(殆どが教授)していたのが注目された。プレー終了後は、パーティールームのテレビは開幕して間もないシドニーオリンピックでの日本選手の活躍を伝えており、比較的早い時間に表彰式も始った。結果は、壮年の部第28位嶋信、第34位栃内秀彦先生となり、健闘むなしく下位に甘んじた。慣れないコースと小雨の中、風も時折強く吹く中、コンディションは最悪で、表彰式も参加しないで帰路につこうと思ったくらいでした。次期開催地は、盛岡市医師会の担当で松尾村安比高原ゴルフクラブで来年9月に予定している旨、小林高盛岡市医師会会長より挨拶があった。次に今回はスコアも悪かったし、このコースの案内も含めて印象を記して務めを果したい。

参加者の中には比較的なじみの薄いゴルフ場のみちのく古都C.C.は、平成7年6月10日の開場で、東北自動車道平泉前沢I.C.を降りて約15~20分の場所にあり、のびのびとした解放感と美しい光景が展開されるINコースと、また左右に池が張り出した

ような印象を与える戦略性の高いOUTコースからなり、一般に自然を生かしたコース作りが各所にみられ、日本庭園の伝統的な手法がとり入れているのがわかる。

特にコースの中で名物ホールといわれるのが数ヶ所あり、印象に残っているのがINコース15番のロングホールは、通称グランドキャニオンといわれるコースの左右に岩壁が張り出ており、ティグランドからみると打ちおろしの左右とも林のヤブで、左側の丁度第1打落下地点と思われる所には段々になったバンカー5ヶ所が待ちかまえているうえに2打地点からは打ち上げのロングとなっているこのホールは、皆さん大変苦勞しているようであった。ようするに1打目は楽に右側の広い空地に落とせばいいのに打ち下しのため距離を出そうと力みが加わるのだろうと予想される。左のヤブに入れたりO.B.が多数みられたようだ。またINコース18番は2打地点から先に大きくエグられた窪地があり、その先打ち上げ地点即ち、グリーン手前に大きな池があるコースも各選手とも苦戦した場所と思われる。OUT、INとも数ヶ所にトリッキーなホールがあり、特にキャディが不足しているために茨城県の姉妹コースから急拠借り出されたというキャディに当たってしまい、コースの説明が不十分な上にグリーンでも不安いっぱいであった。次回は慣れた安比高原G.C.とのこと捲土重来を期したいものと思う。



No.15ホール



みちのく古都C.C.No.108ホール

第11回岩手郡医師会親睦ゴルフ大会

於：岩手沼宮内カントリークラブ

日時：平成12年10月15日

秋晴れの絶好のゴルフ日和、和気あいあいプレイを楽しんだ。



参加者：高橋牧之介会長

佐藤郁郎

吉田

三善 悟

細井 信夫

嶋 信

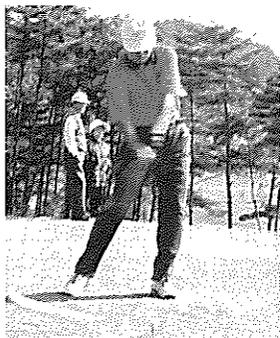
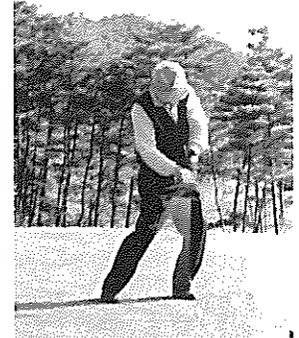
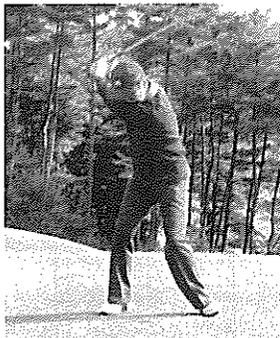
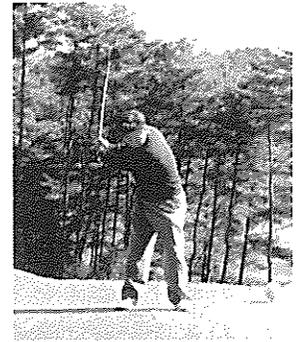
栃内 秀彦

坂井 博毅

以上8人の先生方と大場、谷内、永山、熊谷、菊川、角谷、佐藤の協賛会社の諸氏7名。

優勝者 坂井 博毅

はからずも、ダブルペリヤの幸運に恵まれ、優勝させていただきました。若き実力者土谷先生、久保谷先生、成島先生が、不参加での優勝で少し残念ですが、前回優勝の三善先生、ノバルチスファーマーの大場さんと同伴競技者、キャディーさん、天候にも恵まれ、優勝の栄誉を与えていただきました。ありがとうございます。次回より多くの先生方のご参加を望みつつお礼の言葉といたします。



高橋会長、吉田先生のテイクバックに始まり、細井先生のトップオブザスイング、佐藤先生、嶋先生、坂井のダウンスイング、三善先生のインパクト、栃内先生のフィニッシュはいかがでしょうか。

65才以上は インフルエンザワクチン 接種1回に

厚生省の公衆衛生審議会・感染症部会は10月18日、今冬のインフルエンザ総合対策をまとめ、65才以上の高齢者は1回接種で十分な抵抗力がつくという厚生省の研究を踏まえたもので、詳細は厚生省ホームページなどで来月から配布を始めるQ&Aに盛り込む。14才以上65才未満の接種回数については現在国内で研究中である。予防接種の回数はこれまで通り2回を原則とするものの、毎年きちんと予防接種をうけている人や前年に重いインフルエンザにかかった人で医師が判断した場合には1回でもよいことをQ&Aに示されます。

昨年インフルエンザで死亡した1382人のうち1171人が、今年1月から5月まででも551人中463人が65才以上の高齢者である。このため今冬のインフルエンザ対策としては、Q&Aに盛り込むなどして高齢者への予防接種を強く推奨する。

【コメント】今年より65才以上の高齢者は1回接種でよいことになったが、その他の年齢については2回接種が基本である。

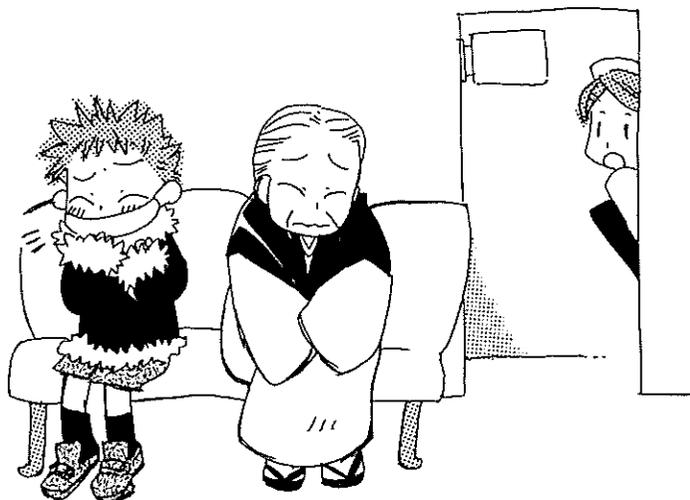
平成12年度スポーツド クター健康体力相談会 学校保健担当理事 上原 充郎

第3回西根町スポーツレクリエーション大会が12年10月18日10:00～15:00行われました。会場に併設されたスポーツドクター健康体力相談会に岩手郡より私が出向き相談を受けた。会場では多くの(800名)西根町民がニュースポーツを中心に楽しんでいました。

約16名程の相談者がおとずれた。相談内容は自分の健康状態が主で主治医に相談すればいいような事が多かった。

中には、運動はどの程度すればいいのかとか、けがの後のリハビリはどの程度がいいか等であった。

いづれ会には参加者が多く、それぞれ楽しんで1日を過ごしていた。



日医FAXニュースから

◎医療廃棄物を5段階区分にしたドイツでの取り組み

チュービンゲン大 ヘーグ教授

院内感染対策を専門とするドイツ チュービンゲン大 ヘーグ教授は10月12日、東京都医師会、医療廃棄物適正処理推進協議会の講演会で、「ドイツの医療機関における医療廃棄物処理」をテーマに講演した。

日本では医療廃棄物の明確な定義づけや分類がなく、医療機関や処理業者に混乱をもたらしているとの指摘があるが、同氏は医療廃棄物が5段階に分類され、それぞれの特性に応じた処理方法が浸透しているドイツの現況を紹介。医療廃棄物が廃棄物全体に占める割合はほんの数%にしかすぎず、特定の廃棄物について特別な処理さえすれば、医療廃棄物による感染などのおそれは非常に少ないと指摘した。

ヘーグ教授によると、ゴミ問題の取り組みで世界の模範となりつつあるドイツでは、環境問題に対する国民の感心は非常に高く、医療廃棄物についても国民全体の問題としてとらえている。医療廃棄物は

- 1) 包装材や調理場からの残飯など「家庭ゴミ類似の廃棄物」
 - 2) 注射針や使用済みの包帯など「医療施設特有の廃棄物」
 - 3) 結核、B型肝炎など届出が必要な伝染病原体付着した「感染性廃棄物」
 - 4) 毒性があり環境に存在すると危険な「化学廃棄物」
 - 5) 血液、組織を含む「身体の一部、組織」の5つに分類され、それぞれの特性に応じて処理方法が定められている。
- 一方、日本では「医療廃棄物」という定

義はなく、血液の付着した医療器具など感染のおそれのある廃棄物が特別管理廃棄物（産業、一般）として指定されているにとどまっている。医療現場や処理業界からは、適正処理対策の一環として医療廃棄物の定義づけ、分類を求める声も出ている。ただ、ドイツでもMRSAは感染性の病原体に該当しないなど、とくに感染性廃棄物をめぐって、ごみの種分類が難しい現状があると説明した。また、ドイツでは医療廃棄物の処理コストを最終的に患者に負担してもらっているため、「最終コストを患者、医療保険、病院のどれが負担するか交渉しなければならない現況だ」と指摘した。

以下綱目のみあげますが詳しくお知りになりたい方は郡医師会または日本医師会広報課 Tel 03—3942—6483 までお問い合わせ下さい。

◎行政による管理医療から脱却

坪井日医会長

◎政府の医療費抑制策を批判

菅谷常任理事

◎精神病床の看護婦配置基準についての見解

西島常任理事

◎国民的議論交えた社会保障の政策評価を

津島厚生大臣



編集後記

岩手郡医報は2ヶ月に1回発行することに総会で決定した。これにともない数名の編集委員をお願いし、役割分担により会報の充実を計ることにした。この度、及川忠人、久保谷康夫、栃内秀彦、高橋邦尚、山口淑子の5人の先生方を編集委員として会長よりご推薦いただき、理事会でこれを御承認いただき、それぞれの先生方からも任務のご承諾をいただいた。にもかかわらず、岩手郡医9月号を発行してあっという間に月日が流れ、FAXでの簡単な事務連絡以外、編集会議を1度も開けずに、11月号を編集しなければならない時が来てしまった。今回も独断と偏見となったことを心からお詫びしたい。

9月号でかなりの誤字誤植があり、数名の先生方からご指摘、ご忠告をいただいた。今後も手厳しくご指摘、ご指導をお願いしたい。編集内容や構成についてのご助言もいただければ幸いです。

今回も報告事項を中心に、主に理事や元理事の先生方に投稿をお願いし、ご協力いただいた。國本先生には大変格調高いご投稿をいただき感謝いたします。偏らず内容豊かな読んでもらえる会報発行のため、多くの先生方の投稿をと願っている。編集委員会の合意の上、先生方に突然、無礼にも投稿依頼のお手紙が届くことがあると思いますので、その際は可能な限りご協力の程お願いいたします。

(坂井博毅)